

年 1945 1946 1947 1972 1974 1978

靖国神社がA級戦犯合祀
 輝夫一さん
 モロタイ島で「中村
 ルバン島で小野田
 日中共同声明
 沖繩の日本復帰
 米大統領中国を訪問
 札幌オリンピック
 グラム島で横井一さん
 大阪万国博覧会
 復員おわる
 ぼんじの部隊の
 B級裁判
 東京裁判(一四八)
 日本国憲法の公布
 財閥解体 農地改革
 ニュルンベルク
 裁判(一四八)
 政治犯の釈放
 治安維持法の廃止
 降伏文書に調印
 復員、「揚はじまる」
 ボツダム宣言を受諾
 日本の敗戦
 ソ連が日本に宣戦
 原爆が広島・長崎に
 国際連合できる
 ボツダム会議
 ドイツが降伏
 東京大空襲 沖縄戦
 ヤルタ会議

1. 敗戦後もつづく戦闘

9月はじめまで 1945年8月15日ですべての戦いがおわったわけではありません。8月8日に日本に宣戦布告したソ連は、満州だけではなく、南樺太、千島列島にも攻めこみ、9月はじめまで戦いをやめようとはしませんでした。日本政府が、連合国に正式に降伏したのは、*降伏文書に調印した9月2日のことでしたが、ソ連は、それまでに、できるだけ多くの地域を手に入れておきたかったのです。

中国戦線でも、日本軍の司令官が中国共産党の軍隊に降伏することを禁じていたため、共産党軍と日本軍とのあいだに戦闘がおこっています。日本軍の武器・弾薬が共産党軍の手にはいるのをおそれた国民政府が、国民政府軍にだけ降伏するというとり決めを、日本軍とのあいだにむすんでいたからです。戦争がおわっているというのに、8月15日以降に、戦闘や病気などで死んだ日本兵は約18万人にもなるといわれています。

ひそんでいた日本兵 また、日本が負けたことをしんじなかつたり知らなかつたりして、ジャングルなどの中に、ひそんでいた日本兵もいました。1955年から60年にかけての時期だけでも、インドネシアなどで19人の日本兵がたすけだされています。そして、72年にはグアム島で横井庄一さんが、74年にはルバン島で小野田寛郎さんが、モロタイ島では「中村輝夫」さんが、発見され、戦争の時代をとおいむかしのことと考えていた日本社会に大きなショックをあたえました。

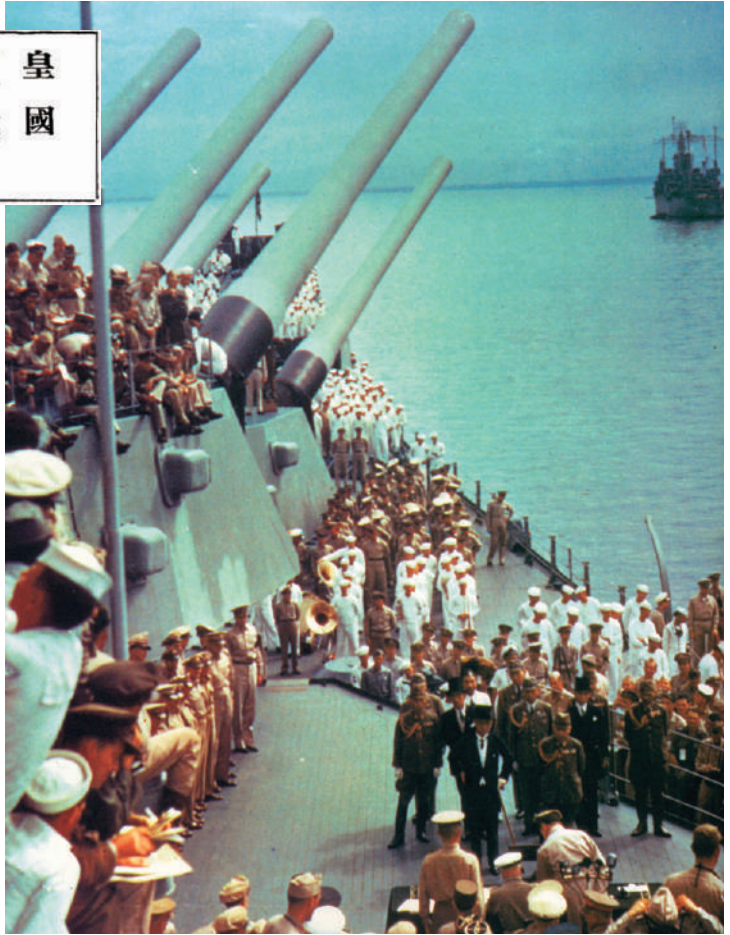
日本兵として 3人めの「中村輝夫」の本当の名まえはスニヨンです。日本の植民地だった台湾の生まれで、日本人の名まえをつけられ、日本兵として戦わされた人でした。なお、小野田さんといっしょに行動していた小塚金七さんは、1972年にフィリピンの軍隊と撃ちあいになり、「戦死」しています。



たいほう こうげき れんぐん
 大砲で攻撃するソ連軍。
 (『図説 太平洋戦争』から)



敗戦にもかかわらず、皇國再興をうたう『週刊朝日』1945年9月16日・23日号にのった三和銀行の広告。(『戦う広告 雑誌広告に見るアジア太平洋戦争』から)



1945年9月2日、東京湾にきたアメリカの戦艦ミズーリ号のうへでおこなわれた、降伏調印式の様子。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)



1974年ルバン島でみづかり、30年ぶりに日本にかえった小野田寛郎さん。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)

- 一九四六 日本国憲法の公布 (女性参政権、選挙法の改正、財閥解体、農地改革)
- 一九四五 東京大空襲、沖繩戦
- 一九四三 ソ連が日本に宣戦、原爆が広島・長崎に、国際連合でのポツダム会談、ドイツが降伏、ヤルタ会談
- 一九四二 イタリヤが降伏、アジア・太平洋戦争(開戦)〜四五
- 一九四一 日ソ中立条約
- 一九四〇 日独伊三国同盟
- 一九三九 第二次世界大戦
- 一九三八 国家総動員法での中国国共合作
- 一九三七 盧溝橋事件から日中戦争に(四五)
- 一九三三 「満州国」の建国
- 一九三二 「満州事変」(三三)
- 一九二七 年 (一九二七)

2. 帰ってこなかった遺骨

紙や戦場の石や砂だけ 満州事変がはじまったころは、戦死者の遺骨はていねいにあつかわれました。戦場で戦死者がでると、遺体をやいて骨にし、その遺骨を遺骨箱に入れて、故郷に帰します。故郷では、町長や校長先生、学校の生徒、町会の人びとなどが、遺族とともに遺骨をむかえ、部隊や町による公の葬儀も盛大におこなわれました。しかし、アジア・太平洋戦争では、いままでよりずっとはげしい戦いがおこなわれたため、戦死者の遺体は戦場にうちすてられることが多く*、遺骨箱に遺骨がはいっていることは、めったにありませんでした。

とくにアジア・太平洋戦争末期の戦死者の多くは、戦死を知らせる公の通知(公報)がとどいたのは敗戦後のことでしたし、帰ってきた遺骨箱には、戦死者の名まえを書いた紙や戦場の石や砂だけがいっているのが普通でした。遺骨箱をふるとコロコロと音がして、かなしかったと多くの遺族が語っています。

遺骨収集活動 しかし、日本政府は、戦場にうちすてられた遺骨をさがしだし、日本にもち帰ること(遺骨収集といいます)には熱心ではありませんでした。政府が遺族や生きのこった兵士たちの声におかれて、東南アジアなどで大がかりな遺骨収集活動をはじめるのは、1967年度からのことです。また、海の底にしずんでいる軍艦や商船の中にもたくさんの遺骨がのこされていますが、それをひきあげることに、政府は熱心ではありませんでした。

半数にしかすぎない 政府の発表によれば、アジア・太平洋戦争では、海外で軍人など約210万人、民間人約30万が死亡していますが(ただし、沖縄・硫黄島をふくめた数字)、このうち遺骨が日本にもどってきたのは政府の発表でも半数にしかすぎません。また、国内でも、東京大空襲や原爆による死者のように、行方不明となったままの人がたくさんいます。



日中戦争のはじめのころ静岡連隊でおこなわれた慰霊祭。このころはまだ盛大だった。(「静岡連隊写真集」から)



1943年10月2日、東京・上野駅に、アツ島で「玉砕」した守備隊の遺骨342人分がかえってきたところ。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)

お父さんが戦死し、お母さんも亡くした子ども。靖国神社につれてこられ、なみだがほおをながれた。(『写真・絵画集成 日本の子どもたち2 15年戦争のなかで』から)



空襲で家をやかれ、すむところにも苦労した。中古のバスを家にした人(写真)、やけのこった板でほったて小屋をつくった人、トタンでたてたバラックにすむ人もいた。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)



「パンやき器」をつかう子どもたち。戦後は、まずまず食料不足がひどくなり、米のかわりに手にはいった小麦粉をやいた「パン」でのいだ。(写真昭和30年史)から)

一九四六 日本国憲法の公布
 (女性参政権
 選挙法の改正
 財閥解体 農地改革
 ニュルンベルク
 裁判(一九四六)
 政治犯の釈放
 治安維持法の廃止
 降伏文書に調印
 復員、引揚はじまる
 ポツダム宣言を受諾
 日本の敗戦
 ソ連が日本に宣戦
 原爆が広島・長崎に
 国際連合でできる
 ポツダム会議
 ドイツが降伏
 東京大空襲 沖繩戦
 ヤルタ会議
 イタリヤが降伏
 開戦(一九四一)
 アジア・太平洋戦争
 日ソ中立条約
 日独伊三国同盟
 第二次世界大戦
 国家総動員法できる
 中国国共合作
 盧溝橋事件から日中
 戦争に(一九三七)
 満州国「できる」
 満州事変(一九三二)
 年
 1941

3. 戦争の被害

第2次世界大戦では、どれだけの人が亡くなっているのでしょうか。世界全体では、軍人の戦死者数が2,357万人、民間人の死亡者数が3,116万人、合計で※5,473万人です。死者の数の多さにおどろかされますが、軍人の戦死者より民間人の死者の方が多いいこともわかります。その原因の1つは、ドイツのユダヤ人虐殺のように、民間人に対する大がかりな虐殺がおこなわれたことです。もう1つは、一般の民衆も軍需産業で働くなど、さまざまなかたちで戦争に参加するようになったことです。

すべての国民が参加する戦争のことを総力戦といいます。このために、多くの民間人が戦いにまきこまれて死亡しただけでなく、都市に対する無差別爆撃や原爆投下、日本軍による「三光作戦」などのように、民間人に対する攻撃もたいへん多くなりました。さらに、発達した科学技術を利用することによって、原爆のような破壊力の大きな新兵器がつかわれるようになったことも、死者の数を大きなものとししました。

日本人の場合もみてみましょう。政府によれば、日中戦争から敗戦までの日本人の死者は、軍人などが約230万人、海外での民間人死者が約30万人、空襲などによる国内の民間人死者が約50万人、合計、約310万人とされています。ただし、軍人などの戦死者の中には、約5万人の朝鮮人・台湾人がふくまれていることをわすれてはなりませんし、沖縄の戦いや空襲による民間人の死者は、もっと多い可能性があります。

最大の被害者
 また、日本が侵略した中国や東南アジアの犠牲者については、よくわからないところが多いのですが、合計で約1,900万人以上が死亡したといわれています。日本がかけた侵略戦争の最大の被害者は、アジアの民衆でした。



1945年9月、市の中心部がまるやけになった仙台市。1946年になるとバラックの商店が52軒たち、名物の七夕祭も復活した。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)



地下壕を教室に授業。1945年9月1日から国民学校の授業がふたたびはじまったが、青空教室や地下壕教室も多かった。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)

戦後、食料がない時期がつづき、列車は買出しと通勤の人で屋根まであふれた。1948年10月、埼玉県・大宮ゆきの東武鉄道で。(『毎日グラフ別冊一億人の昭和史 昭和全史1926~1988』から)



原爆で焼け野原になった長崎のようす。原爆がおとされたところから東南800メートルにある山王神社の二の鳥居は、爆風で柱を1本ふきとばされてしまった。(『日本写真全集4戦争の記録』から)

中国の広東をおとし、町をやく日本軍。(『別冊歴史読本 太平洋戦争の全貌』から)



日本の敗戦で、解放をよこごぶ韓国の人たち。「朝鮮独立バンザイ」とわきかえった。(『写真・絵画集成 日本の子どもたち2 15年戦争のなかで』から)

一九四六 日本国憲法の公布
 (女性参政権
 選挙法の改正
 財閥解体・農地改革
 ニュルンベルク
 裁判(一九四六)
 政治犯の釈放
 治安維持法の廃止
 降伏文書に調印
 復員、引揚はじまる
 ボツダム宣言を受諾
 日本の敗戦
 ソ連が日本に宣戦
 原爆が広島・長崎に
 国際連合でできる
 ボツダム会談
 ドイツが降伏
 ヤルタ会談
 イタリヤが降伏
 開戦(一九四五)
 アジア・太平洋戦争
 東京大空襲 沖縄戦
 一九四五
 一九四三
 一九四二
 一九四一
 日ソ中立条約
 日独伊三国同盟
 一九四〇
 一九三九 第二次世界大戦
 国家総動員法でできる
 中国国共合作
 一九三七 戦争に(一九四五)
 盧溝橋事件から日中
 一九三七
 一九三三
 満州国(一九三三)
 満州事変(一九三三)
 一九三二
 一九二二
 年

4. 孤児となった子どもたち

両親をなくし 戦争の中で多くの子どもたちが死んでいきましたが、戦争で父親をなくした子どもたちも100万人以上いたといわれています。なかでも、両親をなくした子どもたちには、いっそうつらい生活がまわっていました。1948年2月に厚生省がまとめた調査によれば、全国には、空襲などで両親をうしなった「戦災孤児」が約2万8,000人、海外からの引揚のとちゅうで両親をうしなった「引揚孤児」が約1万1,000人もいました。1945年3月10日の東京大空襲のときにも、学童疎開で地方にいたため、本人は無事だったものの、東京にいた家族が全滅して孤児となった子どもたちも少なくありませんでした。

浮浪児 孤児をうけいれる国の施設がほとんどなかったため、孤児の多くは、親戚にひきとられました。やっかい者あつかいされ、親戚のあいだをたらいまわしにされることもあり。見も知らずの孤児を養子としてひきとる人もいましたが、なかには、ただ働きさせることだけが目的の人もいました。一番悲惨だったのは、どこにもゆきばがなく浮浪児となった子どもたちです(戦争孤児を記録する会編『焼け跡の子どもたち』クリエイティブ21、1997年)。

浮浪児とは、いまでいえば子どものホームレス、あるいはストリートチルドレンのことです。敗戦直後の上野駅などには、こうした子どもたちがたくさんあつまっていて、物乞いをしたり、ときにはぬすみなどをしたりしながら、どん底の生活をおくっていました。警察は、子どもたちをつかまえて施設におくりこむ「浮浪児狩り」をおこないましたが、粗末な食事や体罰が原因で、多くの子どもたちが、そこをにげだしています。

就職先がない 孤児たちが大きくなると、こんどは、いい就職先がないという差別がまわっていました。親がないというだけの理由で、採用をことわられることが多かったのです。戦争は子どもたちの中にも、こんなにふかい傷あとをのこしています。



東京・新橋駅前(しんばしきまえ)のやけあと(焼けあと)にできた青空市場(あおぞらいちば)。孤児たちもこうした人のあつまるところにもぐりこんで、すがらひろいやくつみがきなどで生活していた。(『写真昭和30年史』から)



板とむしろでつくった浮浪児(ぶろうじ)のねぐら(ねぐら)。必死(ひつし)で生きていた。(『写真集子どもたちの昭和史』から)



たべものがなく、がりがり(がりがり)にやせた子どもたち。東京・板橋(いたばし)の戦災孤児収容所(せんさいこじしゅうようじょ)で。(菊池俊吉(きくちしゅんきち)さん撮影。『日本写真全集4戦争の記録』から)



東京・板橋(いたばし)の戦災孤児収容所(せんさいこじしゅうようじょ)での食事(しじ)のようす。(『写真昭和30年史』から)



サイパン島(さいぱんじま)で収容所(しゅうようじょ)の孤児院(こじいん)にいた、4歳(さい)から15歳(さい)までの子どもたち133人(にん)。1946年(ねん)1月(がつ)の引揚(ひきあげ)までここでくらししていた。(『写真・絵画集成 日本(にほん)の子どもたち2 15年戦争(じゅうごねんせんそう)のなかで』から)



浮浪児狩り(ぶろうじが)でつかまった子どもたち(こ)。脱走(だつそう)も多かった。(『一億人(いち億にん)の昭和史 4空襲(くうしゅう)・敗戦(ばいせん)・引揚(ひきあげ)』から)

年 (year) 1915 (1915) 第一次世界大戦 (First World War) 1919 (1919) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1922 (1922) 日中立立条約 (Treaty of Commerce and Consular Rights) 1931 (1931) アジア・太平洋戦争 (Asia-Pacific War) 1937 (1937) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1940 (1940) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1941 (1941) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1942 (1942) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1943 (1943) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1944 (1944) 日独伊三国同盟 (Triple Alliance) 1945 (1945) 第二次世界大戦 (Second World War) 1946 (1946) 日本国憲法の公布 (Enactment of the Japanese Constitution) 1947 (1947) 日本国憲法の公布 (Enactment of the Japanese Constitution)

6. 占領と戦後改革

GHQ 1945年9月2日、日本政府は降伏文書に調印し、連合国に正式に降伏しました。アメリカ、イギリスなどの連合国は、軍隊をおくりこんで日本を共同で占領し、日本政府に命じて、戦後改革とよばれる、さまざまな改革をおこなってゆくことになります。日本が受諾したポツダム宣言は、日本軍の降伏と武装解除だけではなく、日本を平和で民主的な国家につくりかえることを、もともとめていたからです。

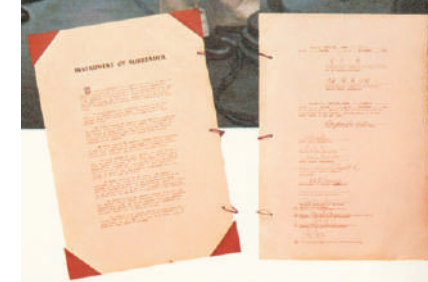
この改革の中心となったのが、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）でした。
 ※ 占領軍の大部分はアメリカ軍でしたし、アメリカ軍の司令官であるマッカーサー元帥が連合国軍の総司令官をかねていましたので、共同占領といっても、実際にはアメリカによる単独の占領でした。そのため、アメリカの利益が優先されたこともたしかです。

日本国憲法の制定 しかし、世界の各国が、平和な国際社会をつくりあげることが強くねがい、侵略戦争をはじめた日本とドイツを徹底的に改革することを強くもともとめていたため、占領政策の一番の目的は日本の民主化と非軍事化におかれしました。ひさんな戦争を体験した多くの日本人も、この政策を支持しました。

日本国憲法の制定は、そうした改革の総仕上げでした。日本政府は、大日本帝国憲法（明治憲法）を手なおすことしか考えていませんでしたが、GHQは日本政府の姿勢に満足せず、日本の民間の研究会などがつくった進歩的な憲法案なども参考にしながら、自分自身の手で憲法案を作成し、それにもとづいてあたらしい憲法をつくることを日本政府に命じました。

平和をつくる宣言 その結果、1946年11月3日に公布されたのが、いまの日本国憲法です（施行は、47年5月3日）。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義などの原則をあきらかにしたこの憲法は、戦争に対する反省のうえに、平和で民主的な社会をつくりあげることが宣言する内容になっています。

ミズーリ号で調印された降伏文書。うえから日本の全権の重光葵、梅津美治郎、そして連合国代表のマッカーサーと、米英仏中ソなど9カ国代表が署名。本文には「日本を連合国軍の占領下におく」と書かれていた。（『証言の昭和史 6 焼跡に流れるリンゴの唄』から）



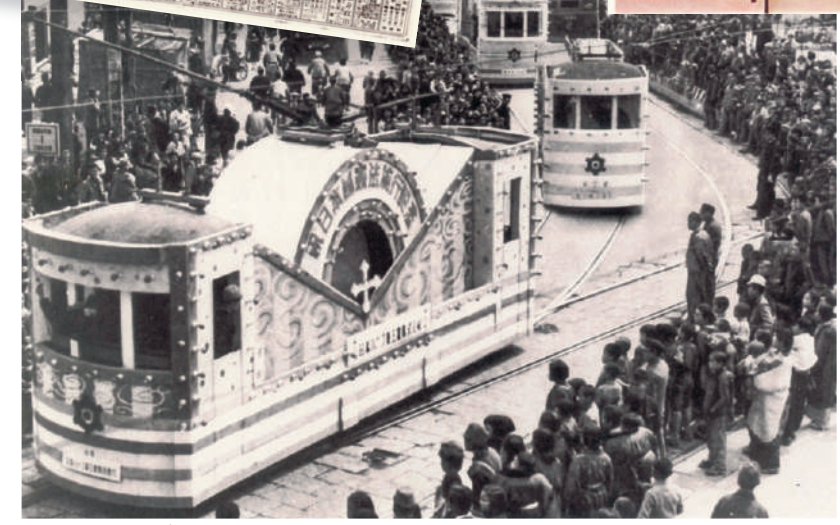
東京の空にひるがえるアメリカの国旗（星条旗）。奥に見えるのは国会議事堂。（『別冊歴史読本特別増刊 太平洋戦争総決算』から）



日本国憲法の公布を伝える「毎日新聞」。（『証言の昭和史 6 焼跡に流れるリンゴの唄』から）



日本国憲法公布の詔書。天皇の署名と印（御名御璽）、各大臣の署名がはいっている。（『証言の昭和史 6 焼跡に流れるリンゴの唄』から）



1947年5月、憲法の施行をいって東京を花電車はがした。（『写真集子どもたちの昭和史』から）



占領軍の兵士のくつをみがく少年。戦災孤児にはくつみがきが生活費をかせぐだいじなしごとだった。（奥村泰宏さん撮影。『日本写真全集4戦争の記録』から）